

R7 前期学校評価アンケート質問内容

		教職員	生徒	保護者
1	目標の明確化	生徒や保護者に短期目標や評価について、伝えている	今、現在の自分の目標がわかっている	短期目標や評価について、学校や保護者に伝えている
2	目標に向かう取組	生徒が自己目標に向かって学習に取り組めるよう指導している	目標にむかって学習に取り組んでいる	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる
3	地域コミュニケーションの授業の満足感や達成感	生徒が満足感や達成感を持ち、地域コミュニケーションの学習に取り組めるよう指導している	地域コミュニケーションの授業で「できた」「うれしかった」ことがある	子どもは地域コミュニケーションの授業に満足感や達成感を感じている
4	共通教科の授業の満足感や達成感	生徒が満足感や達成感を持ち、共通教科の学習に取り組めるよう指導している	共通教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	子どもは共通教科の授業に満足感や達成感を感じている
5	実習の満足感達成感	生徒が満足感や達成感を持ち、職場等実習に取り組めるよう指導している	職場での実習で「できた」「うれしかった」ことがある	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている
6	一生懸命取り組む	生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	一生懸命に学習に取り組んでいる	子どもが一生懸命に学習に取り組むような励ましをしている
7	生徒の良さの理解	生徒のよさを積極的に見つけ、認め、伝えている	自分のよさがよくわかっている	子ども本人に自身のよさを伝えている
8	働く意欲	働く意欲や働くために必要な姿勢・態度を育てている	働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身についてきた	子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度について話すよう心がけている
9	計画的な指導や支援の伝達	教員は個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	先生は何のために勉強をするのかをわかりやすく教えてくれる	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援を把握している
10	生徒の学習成果の伝達	生徒の努力や達成度について評価し、個別の包括支援プランの作成や指導法の改良に活かしている	先生は学習の成果について伝えてくれる	子どもが頑張っている姿をほめている
11	友達仲間、協力	生徒が友だちや仲間を大切にし、互いに協力しようとする態度が養えている	友だちや仲間を大切にし、互いに協力している	子どもには友だち仲間を大切にし、互いに協力するよう話している
12	誰かの役にたっている	生徒が誰かの役に立ちたいという思いを促す学習を用意している	自分は誰かの役に立っていると思う（ありがとうと言われた・手伝って感謝されたなど）	家での役割に対して、子どもにありがとうと伝えている
13	生徒への理解	生徒のことを理解できている	自分のことを理解してくれる人がいる	子どものことを理解できている
14	挨拶	生徒が自分から積極的に挨拶しようとする態度が養えている	自分からすすんで挨拶をしている	家庭・施設では自分から進んで挨拶するように伝えている
15	規則正しい生活	生徒には規則正しい生活を送るよう指導している	規則正しい生活を送るよう心がけている	子どもには規則正しい生活を送るよう話している
16	食生活（朝食）	生徒が好ましい食生活を送れるよう指導している	朝ごはんをきちんと食べている	子どもに朝ごはんをきちんと食べるように促している
17	衛生面	生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	清潔にしている（例、入浴・着替え・歯磨きなど）	子どもには日常的に清潔にするように促している
18	決まり約束を守る大切さ	生徒に学校のきまりや約束を守る大切さについて指導している	（学校や家庭、社会での）きまりや約束を守ることは大切である	子どもは学校や家庭、社会での決まりや約束を守ることは大切なことと思っている
19	決まり約束を守る	生徒は学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	（学校や家庭、社会での）きまりや約束を守っている	子どもに学校や家庭、社会のきまりや約束を守るように働きかけている
20	時間を守る	生徒には時間を守る大切さを指導している	時間を守ることを意識して行動している	子どもには時間を守る大切さを伝えている
21	家庭内での役割	生徒に家庭内で決まった役割を担うよう促している	家庭で決まった役割（例、お手伝い）があり、実行している	家庭での役割を決め、子どもが責任を持って果たせるようにしている
22	企業との連携・協働	企業との連携・協働による学習環境が設定できている（職場実習など）	企業の協力や理解があり、職場実習などができていることに感謝している	企業との連携・協働による職場実習等で最後まで取り組めるように励ましている
23	地域との連携・協働	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	地域の協力や理解があり、地域との活動ができていることに感謝している	地域との連携・協働による地域コミュニケーションや地域行事などで最後まで取り組めるように励ましている
24	個別の相談	生徒や保護者からの個別相談に対応している	困ったときに家庭や学校において相談ができる人がいる	個別相談など学校に気軽に相談できる
25	学校の教育の趣旨	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている		保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している
26	いじめ防止	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている		
27	生徒の訴えの共有	生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している		

## 東山総合支援学校 令和7年度 前期 学校評価アンケート考察

### ■ アンケート回答方法

- ・生徒、教職員については Forms による回答
- ・保護者は Forms もしくは解答用紙のいずれかによる回答
- ・各項目を「よくできている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」の4段階で評価

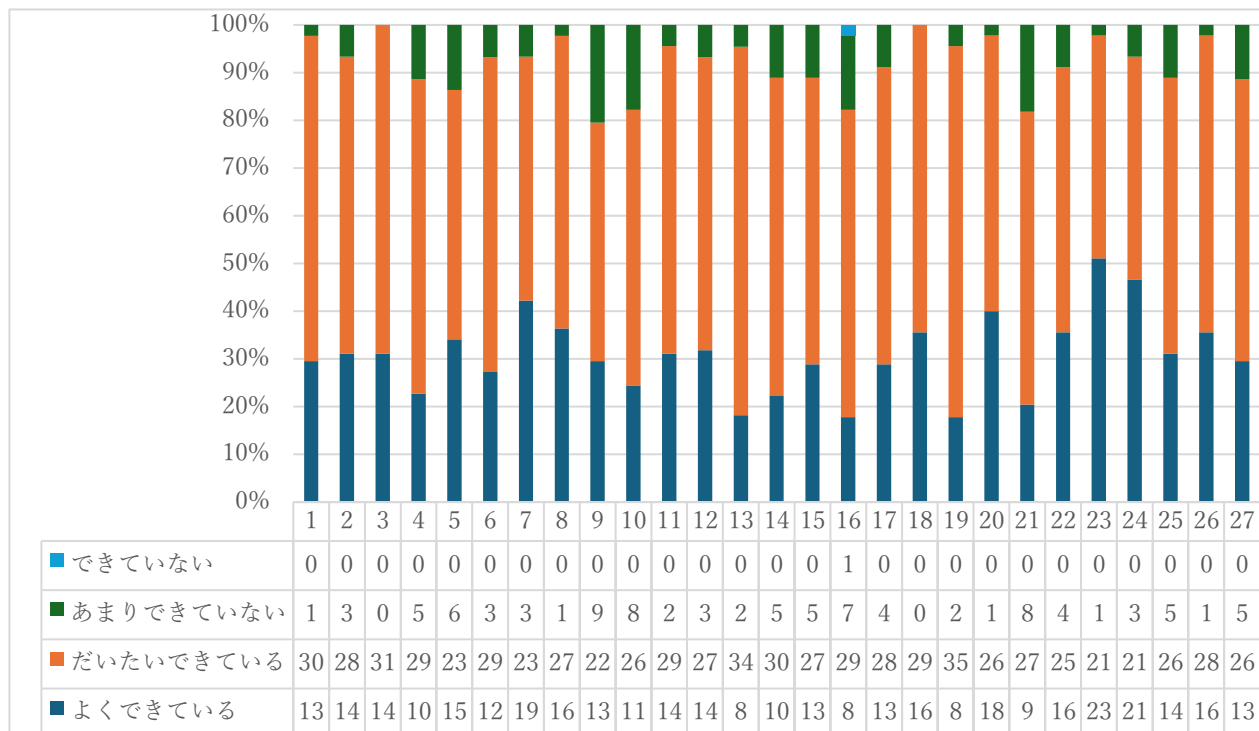
### ■ 考察方法

- ・「よくできている」「そう思う」「だいたいできている」「まあまあそう思う」を肯定的回答とし、「あまりできていない」「できていない」を否定的な回答として分析

### ■ 質問数及び回答数

- ・教職員アンケート集計（全27項目）（45／47名）
- ・生徒のアンケート集計（全24項目）（93／108名）
- ・保護者のアンケート集計（全25項目）（93／108名）

### Ⅰ、教職員アンケート結果について（45／47名）



教職員アンケート27項目における「よくできている」「だいたいできている」の合計が95%を超えるものは

- 項目1 生徒や保護者に短期目標や評価について伝えている(98%)
- 項目3 生徒が満足感や達成感を持ち、地域コミュニケーションの学習に取り組めるよう指導している(100%)
- 項目8 働く意欲や働くために必要な姿勢・態度を育てている(97%)
- 項目11 生徒が友達や仲間を大切に、互いに協力しようとする態度が養えている(95%)
- 項目13 生徒のことを理解できている(95%)
- 項目18 生徒に学校のきまりや約束を守る大切さについて指導している(100%)
- 項目19 生徒は学校のきまりや約束を守って生活を送っている(96%)
- 項目20 生徒には時間を守る大切さを指導している
- 項目23 地域との連携・協働による学習環境が設定できている(98%)
- 項目26 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理科し、組織的に対応に努めている(98%)

項目3と項目18については、100%となっている。項目3については地域協働の学習において、活動を継続していること。また、振り返ることで個に応じた目標を立て達成できるように支援できている環境であると考察できる。

項目18については、生徒主体で学校生活のきまりを考え、実際に守れていること、また守れていないときには初期に指導できていると考えられる。

反対に、85%を下回る項目は次の項目があげられる。

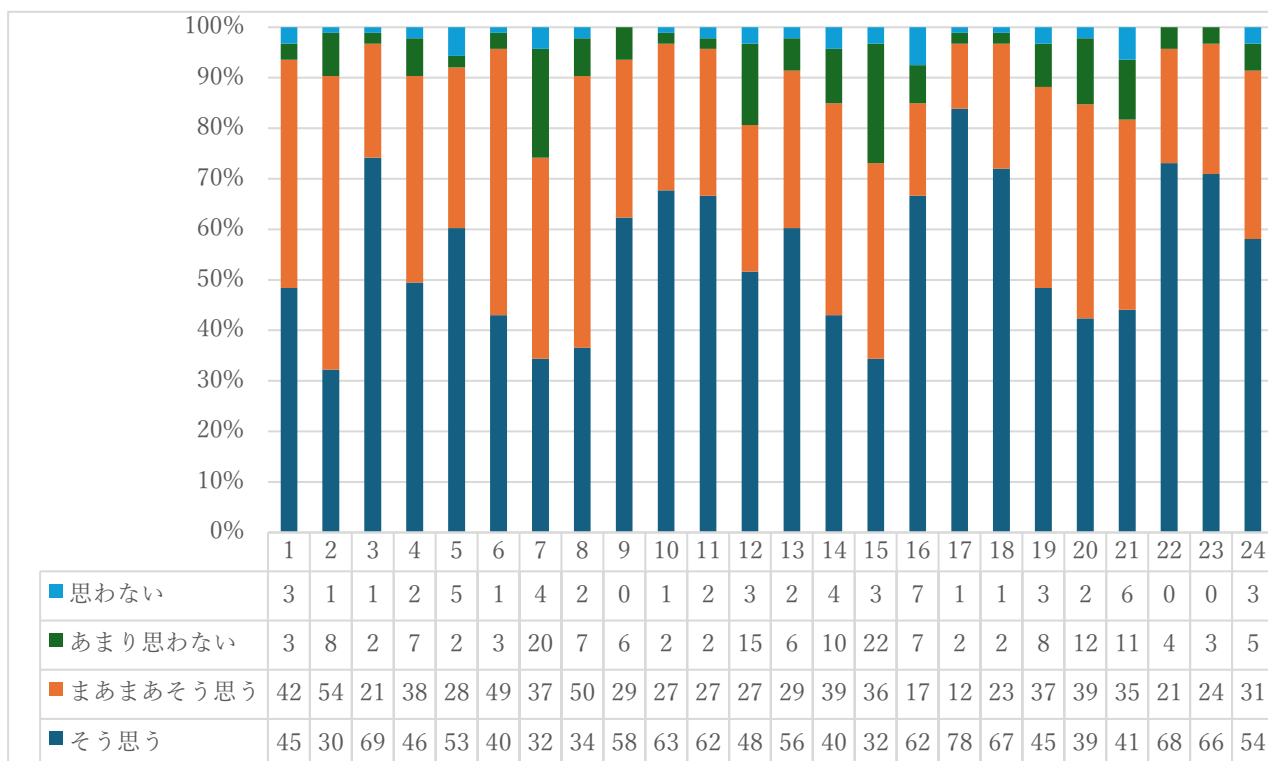
- 項目9 教員は個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行っている(80%)
- 項目10 生徒の努力や達成度について評価し、個別の包括支援プランの作成や指導法の改良に生かしている(80%)
- 項目16 生徒が好ましい食生活を送れるよう指導している(82%)
- 項目21 生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している(81%)

項目9、項目10については、昨年と同じく80%以下を示している。項目9においては昨年度より4%ダウンしている。

個別の包括支援プランが生徒一人一人への支援計画に活用できにくい現状があるのではないかと考える。改良と教員の認識を深め、授業改善へとつなげていく必要がある。

## 2、生徒用アンケート結果について(93／108名)

(1年34名 / 2年28名 / 3年31名 )



生徒アンケート24項目における「そう思う」「まあまあ思う」の合計が95%を超えるものは

項目3 地域コミュニケーションの授業で「できた」「うれしかった」ことがある(97%)

項目6 一生懸命に学習に取り組んでいる(96%)

項目10 先生は学習の成果について伝えてくれる(97%)

項目11 友達や仲間を大切にし、互いに協力している(96%)

項目17 清潔にしている(97%)

項目18 (学校、家庭、社会での)きまりや約束を守ることが大切である(97%)

項目22 企業の協力や理解があり、職場実習などができていることに感謝している(96%)

項目23 地域の協力や理解があり、地域との活動ができていることに感謝している(97%)

項目3、項目10、項目18、項目23の4項目はいずれも97%と24項目の中で最高値であった。

4項目の主となるのは「地域協働」ではないだろうか。項目22も含めて考えると学校という枠組みを超えてこそ感じられる思いであり、感謝の気持ちである。項目18も含めて捉えると、きまりに対する気持ちもたくさんの人や物、社会とつながっているからこそ芽生えると考え。

反対に、85%を下回る項目は次の項目があげられる。

項目7 自分の良さがよくわかっている(74%)

項目12 自分は誰かの役に立っていると思う(ありがたうと言われた、手伝って感謝されたなど)(8

1%)

項目15 規則正しい生活を送るよう心がけている(72%)

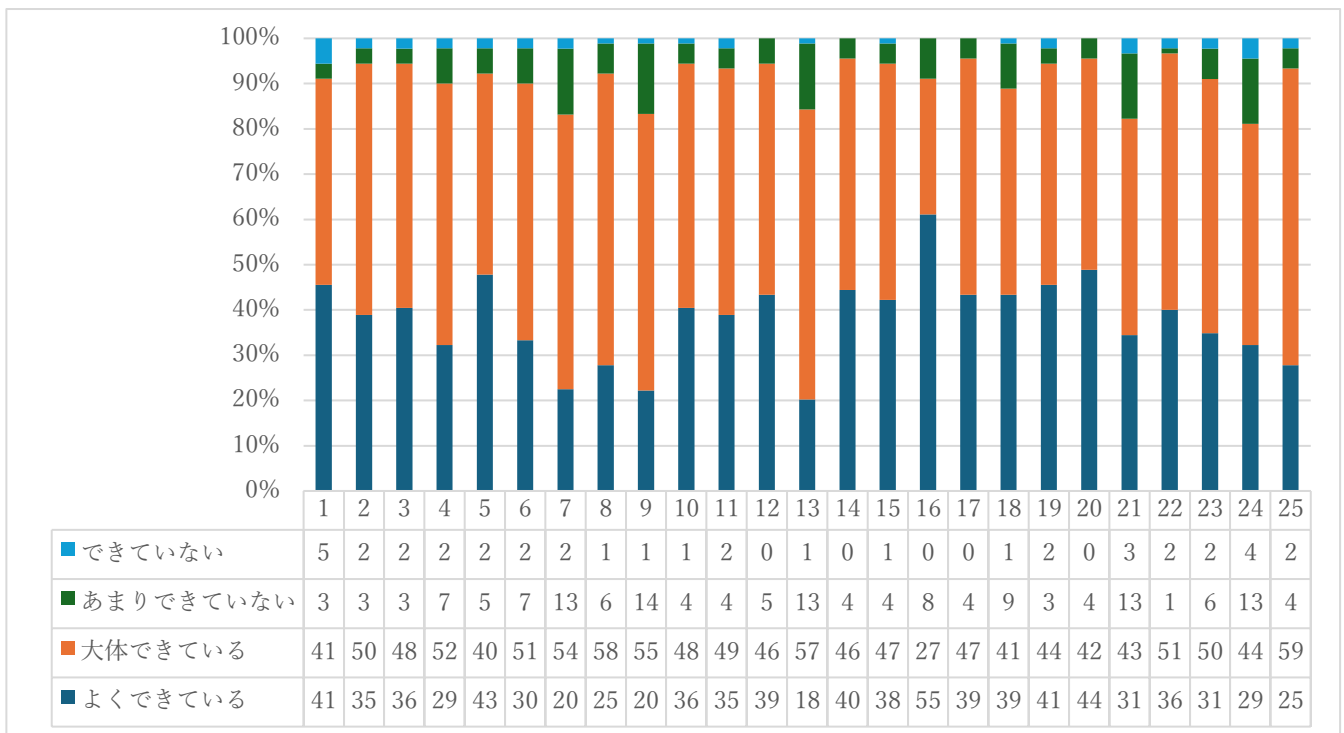
項目20 時間を守ることを意識して行動している(84%)

項目21 家庭でできた役割(お手伝いなど)があり、実行している(82%)

項目7、項目12は昨年度と同じく、低い値である。上記で述べたように、人とのつながりの中で感謝することや協力する大切さを学び取ることができている反面、自身に対する思いや自己有用感が低くなっている。「ありがとう」「助かります」などの感謝の言葉を実際に受け、体感し、そしてその意味について、「対話」を通して学ぶことが大切であると考察する。

### 3、保護者用アンケート結果について(92/107名)

(1年41名 / 2年25名 / 3年23名)



保護者アンケート25項目における「そう思う」「まあまあそう思う」の合計が95%を超えるものは

項目2 子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる(95%)

項目14 家庭・施設では自分から進んで挨拶するように伝えている(95%)

項目17 子どもには日常的に清潔にするように促している(95%)

項目19 子どもには学校や家庭、社会のきまりや約束を守るように働きかけている(95%)

項目22 企業との連携、協働による職場実習等で最後まで取り組めるように励ましている(97%)

項目2、項目14、項目17、項目19においては、いずれも95%になっている。卒業後の就労を目指

している子どもたちの日々の学習について十分に理解していただき、ご支援いただいている結果だとうかがえる。特に項目2については昨年度より10%上回っている。学校生活について、家庭で共有していただいていることが読み取れる。

項目22においても97%の最高値であった。他機関と連携し協力して、子どもが職場実習などを積み重ねていくことの重要性について理解していただいている。

反対に、85%を下回る項目は次の項目があげられる。

項目7 子ども本人に自身の良さを伝えている(83%)

項目9 子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援を把握している(83%)

項目13 子どものことを理解できている(84%)

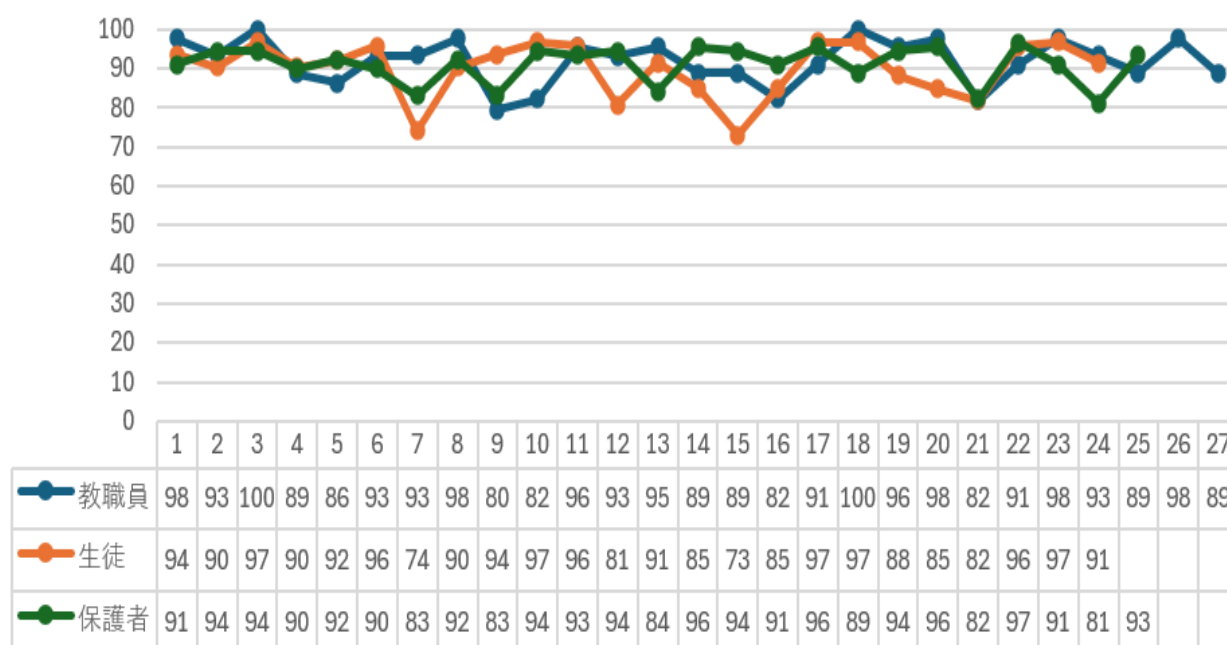
項目16 子どもに朝ご飯をきちんと食べるように促している(83%)

項目21 家庭での役割を決め、子供が責任を持って果たせるようにしている(82%)

項目24 個別相談など学校に気軽に相談できる(81%)

項目7、項目9、項目24については昨年度とほぼ同様の値である。ケース懇談などで学校生活や個別の包括支援プランについてお話しているが、十分に伝えることができていないのではないかと、また保護者の話を傾聴する時間が取れないのではないかと考える。子どもの良さを知っていただき、気兼ねなく相談できる状況を作れるよう、話す内容を整理して提示することや、保護者の話を傾聴する時間を設定していく必要がある。

#### 4. 教職員・生徒・保護者 間の比較



【教職員】【生徒】【保護者】の「できている」「だいたいできている」を合計したものを比較して折れ線グラフに表した。

三者とも評価の高いもの（合計が285ポイント以上）と、三者とも評価の低いもの（合計が250ポイント未満）、三者の評価に有意差が見られるもの（差が15ポイント以上あるもの）について考察する。

#### ① 三者とも評価の高いもの（合計が285ポイント以上）

項目3（教）生徒が満足感や達成感を持ち、地域コミュニケーションの学習に取り組めるよう指導している（100%）

（生）地域コミュニケーションの授業で「できた」「うれしかった」ことがある（97%）

（保）子どもは地域コミュニケーションの授業に満足感や達成感を感じている（94%）

項目4（教）生徒が満足感や達成感を持ち、共通教科の学習に取り組めるようにしている（89%）

（生）共通教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある（90%）

（保）子どもは共通教科の授業満足感や達成感を感じている（90%）

項目18（教）生徒の学校のきまりや約束を守る大切さについて指導している（100%）

（生）（学校、家庭、社会での）きまりや約束を守ることは大切である（97%）

（保）子どもは学校や家庭、社会のきまりや約束を守ることは大切なことだと思っている（89%）

項目23（教）地域との連携・協働による学習環境が設定できている（98%）

（生）地域の協力や理解があり、地域との活動ができていることに感謝している（97%）

（保）地域との連携、協働による地域コミュニケーションや地域行事で最後まで取り組めるように励ましている（91%）

項目3、項目4については、授業についての評価になる。項目3は地域コミュニケーション、項目4は共通教科についてであり、どちらにおいても三者が90%以上の高評価をしている。項目3の教職員については100%となっている。本校が力を入れている地域コミュニケーションの取組において、三者が同じ方向を向いて前向きに進んでいることがうかがえる。項目4については共通教科において、一人一人が達成感を感じ取る授業の展開ができているとうかがえる。

項目18は、卒業後働き、社会人を目指すというそれぞれの観点から、常に規範意識を持って行動していることがうかがえる。

項目23は、地域協働の取組において、連携と協働ができていることがうかがえる。地域の方々と共に活動し、協力しあうことで「責任感」や「頼りにされる喜び」、「コミュニケーションの楽しさ」が育成できていると考察する。

② 三者とも評価の低いもの（合計が250ポイント以下）

- 項目7 (教) 生徒のよさを積極的に見つけ、認め、伝えている(93%)  
(生) 自分のよさがよくわかっている(74%)  
(保) 子ども本人に自身の良さを伝えている(83%)

- 項目21 (教) 生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している(81%)  
(生) 家庭で決まった役割(お手伝いなど)があり、実行している(82%)  
(保) 家庭内での役割を決め、子どもが責任を持って果たせるようにしている(82%)

項目7については以下③に記述。

項目21では、昨年度より引き続き、同様の結果である。日常生活の中で、お手伝いなど簡単なことから始め、継続できる役割がないか、ケース懇談など三者で検討し、個別の包括支援プランにおいて短期目標に掲げ取り組んでいく。

③ 三者のパーセンテージに有意差が見られるもの（ポイント差が15ポイント以上）

- 項目7 (教) 生徒のよさを積極的に見つけ、認め、伝えている(93%)  
(生) 自分の良さがよく分かっている(74%)  
(保) 子ども本人に自身の良さを伝えている(83%)

- 項目10 (教) 生徒の努力や達成度について評価し、個別の包括支援プランの作成や指導法の改良に生かしている(80%)  
(生) 先生は学習の成果について伝えてくれる(97%)  
(保) 子どもが頑張っている姿をほめている(94)%

- 項目15 (教) 生徒には規則正しい生活を送るよう指導している(89%)  
(生) 規則正しい生活を送るよう心がけている(72%)  
(保) 子どもには規則正しい生活を送るように話している(94%)

項目7では教職員の「生徒のよさを積極的に見つけ、認め、伝えている」において93%の評価が出ている反面、生徒への質問「自分のよさがよくわかっている」の評価が顕著に低く表れている。授業においては両者とも高評価であり、生徒は達成感や満足感を感じているが、それが自信や強みになっていることに自覚が持ていないと推測される。教職員については目に見える形や対話を通して、授業や活動の振り返りの充実を図り、一人一人の「よさ」へとつながる授業改善が重要だと考察する。

項目10では生徒、保護者とも学習の成果について高評価しているが、教職員の評価は低い。一人一人の目標についての評価と個別の包括支援プランに基づく授業計画がリンクしていない実態があるかどうかをえる。改良と改善が必要であると考え。

項目15では規則正しい生活は大切であることは理解しているものの、定着できない生徒の



実態がうかがえる。保護者とともに、教職員からも規則正しい生活の大切さについて、学校保健の観点からも継続指導していく。